

ソフトバレーボール競技規則

I 試合進行

1. 競技の中断

(1) タイムアウト

各チームは1セットにつき2回のタイムアウトを認められる。このタイムアウトは1回につき30秒とする。

(2) 選手の交代

各セットの選手交代は、2回以内とする。ただし、常に競技者の条件を満たしていなければならない。

2. コートの交替

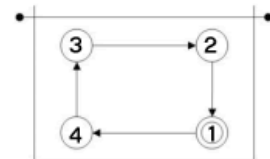
セット毎にコートを交替する。最終のセットはいずれかのチームが8点になった時点で交替する。

3. ローテーション

サービス権を得たチームは、

図のように直ちに時計の針と同じ方向へ選手の位置を一つずつ移動する。

※小学校4年生以下の部、小学校5・6年生の部はローテーションなし



II 得点及び勝敗

1. 1セット15点のラリーポイント制で3セットマッチとする。

(14対14の同点になった場合は、2点差がつくまで行う、ただし17点で打ち切り、17点を先取したチームを勝者とする。)

2. 万が一、負傷などで試合続行不可能な場合には失格とし、相手チームがそのセット又は試合の勝者となる為に必要な点数が与えられ、失格となったチームのそれまでに得た点数はいかされる。

III プレー上の動作と反則

1. プレー上の動作

(1) サービス

ア) サービスは1回とする。

イ) サーバーは、ボールを打った瞬間、あるいはジャンプサービスをするため、踏み切ったとき、コート（エンドラインを含む）やサービスゾーン外のフリーゾーンに触れてはならない。

ウ) サービスは相手チームにサービス権が移行するまで同じ選手が続けて打たなければならない。

(2) アタック・ヒット

ア) サービスとブロックを除き、ボールを相手チームに向かって送ろうとするすべての動作は、アタック・ヒットとみなされる。

イ) 4人の選手はどの位置にいる時でも、味方のプレー空間内であれば、どんな高さからでもアタック・ヒットを行うことができる。ただし、サービスしたボールを、ネット上端より完全に高い位置からアタック・ヒットを完了したときは反則となる。

(3) ブロック

4人の選手は、サービスされたボールを除きどの位置にいる時でもブロックすることができる。

(4) 同時接触

同一チームの2人の選手が同時にボールに触れた時は、1回触れたものとし、その後、いずれの選手も引き続いてボールに触れることができる。※小学校4年生以下はコート内のショートサービスゾーンからサーブを打つことができる。

2. 以下のプレーがあった時は反則となり、相手チームに1点が与えられる。

- (1) ネットを越えて相手に打ち返すために、ボールの接触がブロックの接触を除いて最大3回を越えた時。
(オーバータイムス)
- (2) ボール接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあった時。(ホールディング)
- (3) ネットを越えて相手コート内にあるボールに触れた時。(オーバーネット)
- (4) インプレー中に、ネットやアンテナに触れた時。(タッチネット)
ただし、相手側の打球によりネットが膨らんで触れた時はタッチネットにならない。
- (5) ブロックの場合を除き、同一選手が、明らかに2度続けてボールに触れた時。(ドリブル)
- (6) サービスの打球時に、エンドライン(あるいはショートサービスライン)に足が触れたり、味方のコートに入った時。(フットフォルト)
- (7) センターラインを完全に踏み越したり(パッシングザセンターライン)、相手チームのプレーを妨害した時。(インターフェア)
- (8) サービスがネットに触れるか、相手チームの競技者に触れずにコート外に落ちた時。(サービスフォルト)

IV その他

1. 上記に記載していない競技規則については、(公財)日本バレーボール協会制定 2018 ソフトバレーボール競技規則・ソフトバレーボール小学生競技規則に準ずる。
2. 相互審判で行います。(参加チームから、主審・副審・線審・点示員の協力をお願いします。)
各チームとも長・短のホイッスルを持参すること。
※小学校4年生以下の部及び5・6年生の部は線審・点示員の協力をお願いします。
3. 主催者が準備したゼッケンを必ず使用すること。